日本印刷工組合信友會機關

信友號外

▽報知新聞紛擾の顛末△

二十六日午前十時半頃丸の内報知新聞社印刷工場に勃發した紛議喧爭は惰眠を貪りつゝあつた資本家どもを狼狽せしめた。同社印刷部職工一同は協議の上去る二十二日理事者に對して「二十六日に二部制及最低賃金制實施の要求を提出するが故に其時に至り回答を遅延せしめないやう豫め準備して置いて貰ひたい」と云ふ意味の警告を發し置きたるを以て二十六日は要求提出日なるため仕事掛りの前に更に一同熟議せんとしたるに植字部の職工小林政敏は日頃より社側の走狗として職工間の離間を策しつゝあつたが、突如として多數の職工を罵倒したるため、平素から反感を有ち、頻に腹つてゐる多數の職工は多少昂憤しゐたる場合とて生意氣云ふなとばかりに小林に喰つて掛りそれを動機に全日の大活劇を演出して遂にケースをヒツクリ返し殆んど全部の活字を散亂せしめるに至つた。工場のこの騒ぎを知つた理事者は職工が大暴動を起したものと誤認して日比谷署に急報した、急報に接した日比谷署は急遽十數名の刑事巡査を出動して現場に在つた布留川、北浦、伏下、笹谷、澤ノ井、佐藤、生島、田中の九名を暴動首謀の嫌疑者として拘引し更に社内外の警戒を嚴重にして附近に在つた正進會の幹部十九名を不法にも檢束して職工の活動を減殺せしむるに至つたのである因にこの紛爭のため報知新聞は完然なる新聞を發行する能はずして非常に苦惱し、各同業者並びに普通印刷屋に委囑せんと百方奔走中なるも各所とも首諾を與へないらしいので些か血迷氣味で何等事件に關係なき植字、文選を通じて二十數名の職工を馘首して職工を威嚇せんとする手段を取りたるが新聞從業員組合正進會にては此の由を斷じて一歩も讓歩せざらんとし場合に依ては相當積極的手段に出づる模樣である。

會費領收書

日本印刷工組合 信友會

拜啓 本會の爲め益々御努力被下候段深謝仕候就ては左記會費未納分如何相成居候哉會報發行上都合有之候に付何卒至急便宜を以て御納入願上候
若し御届の便無之候へば振替(受取人東京四三〇二〇番野村孝太郎)にて御送金の程伏して願上候
尚御納入の節は必ず人名御書添被下度候

大正九年　月分

大正九年　月　日

東京府大久保町西大久保三一二五
信友會事務所(會計課)